

夏

心おどる祭りの季節 “粋な”

船橋を体感しにいきましょう

▶郷土の特色がよく出ている
神保町の「神保ばやし」



▲ふなばし市民まつりには、本町御輿と湊町御輿の2基の御輿が登場します。船の揺れを模したゆすり込みを行い、担ぎ手のかけ声とともに、御輿が右へ左へ激しく揺さぶられます

7月

15日 お舟流し

15日 ホウネンボウ

下旬 ふなばし市民まつり/梯子乗りと木遣り歌

22日・23日 印内八坂神社の祭礼

第四土曜日 神保ばやし

8月

21日 小室の獅子舞(八朔の日にも演じられる)

※平成20年より中止しています

P81-D-4 三山/二宮神社 見学自由

7月15日 御手洗の流れに浮かぶ 二艘のススキ舟 お舟流し

平安時代に都から三山の地に流されてきた
藤原師経が赦されて都へ帰る際、その船を送ったことになぞらえているというお舟流し。社殿内での式典後、境内の御手洗の流れに、ススキを束ねた「お舟」を二艘浮かべ、笹付きの真竹を四隅に立て、その内側に10本のヘイソクを立てます。



北部エリア
薬円台・三山エリア

▲御手洗は、正面参道の石段を降りた脇にある

- 所 船橋市三山5-20-1(二宮神社)
- 時 10:00~
- ☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会 文化課)
- 交 JR津田沼駅北口から二宮神社
行きバスで終点下車



P85-C-3 金堀町/日枝神社より 見学自由

7月15日 世代を超えて紡ぐ地域行事 金堀のホウネンボウ

金堀のホウネンボウは、同町で1月17日に行なわれる初ばやしと対をなす行事と考えられている、悪魔祓いの行事です。3メートルほどの丸太の中央部に榊の枝の束をくりつけ、さらに化粧縄をかけたものを神輿の代わりとして担ぎ、ムラウチの各家の玄関先でかけ声をあげながら悪魔祓いをします。

- ▶ ホウネンボウを担いで回るのは少年少女たち



- 所 船橋市金堀町471(日枝神社)より
- 時 17:00~
- ☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会 文化課)
- 交 JR船橋駅北口より豊富農協
前行きバスで「金堀」下車、
徒歩1分

P78-B-3 本町・宮本通り、駅前通り 市指定無形民俗文化財(梯子乗りと木遣り歌) 見学自由

7月下旬 市民まつりで披露される江戸の火消しの妙技 ふなばし市民まつり/梯子乗りと木遣り歌

船橋駅周辺エリア

ふなばし市民まつりは、7月下旬に3日間にわたって行われる大規模なお祭りで、市内外から多くの方が訪れます。2日目・3日目は交通規制も行われ、3日目には本町神輿・湊町神輿の渡御、民踊パレード、ばか面パレード、梯子乗りと木遣り歌などが行われます。



▲本町神輿・湊町神輿の渡御

本町・宮本通り、駅前通りで行われる市指定無形民俗文化財の梯子乗りと木遣り歌は、江戸の町火消の面影をよくとどめた演技で、船橋鳶職組合若鳶会によって伝承されています。

梯子乗りは高さ約3間半(6.3m)の梯子の上で、トオミ・カンタン・ウデダメ・キモツブシ・セガメ・サカサダイノジ・ホカケなど、12~13種の妙技が披露されます。木遣り歌は通し5曲と端もの数曲が伝えられ、その中から数曲が歌われます。



▶若鳶会による「梯子乗り」



▶親鳶会による「木遣り歌」



- 所 本町・宮本通り、駅前通り
- 時 市民まつりフリーフレットをご参照ください
- ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会文化課)
- 交 JR船橋駅、京成電鉄 京成船橋駅から徒歩6分
- 指 昭和44年4月17日
- ➡ 近隣で見られる文化財

- ① 明治天皇船橋行在所(千葉銀行船橋支店)……P46
- ② 船橋御殿跡 附 東照宮……P49

P80・B-2 印内／八坂神社 P79・C-3 宮本／船橋大神宮ほか P80・B-3 西船／山野浅間神社 **見学自由**

7月

市内各所で行われる

船橋市の夏祭り

夏祭りは、高温多湿で疫病が蔓延しやすい時期に、疫病や災いを祓うために行われてきました。とりわけ都市部で盛んに行われ、町会毎に神輿や嗜好を凝らした山車を仕立てて町内(氏子の範囲)を順行し、夏の祓いをしました。こうした夏祭りは現在でも行われており、印内の八坂神社、漁師町の天王様(八劔神社の祭礼)などがあります。

印内の八坂神社の祭礼は、7月22日・23日に行われ、22日に子供神輿、23日に大人神輿の渡御が行われます。八坂神社の御神体は荒神(スサノオノミコト)のため、23日の神輿は荒々しくもまれます。

八劔神社はもともと本町3丁目の円蔵院の北西にあった神社で、明治41年(1908)に大神宮境内の金比羅神社に合祀されました。祭礼は3年に一度行われる例大祭とその間の2年間に行われる陰祭があり、陰祭では神輿渡御は行われず、式典だけが行われます。平成22年の例大祭は5日間をわたって行われ、2～5日目には各町で神輿のゆすり込みが行われました。

これらのほかにも、神保ばやし(P16)が行われる神保町須賀神社の祭礼や山野浅間神社の祭礼など、夏祭りは市内の各所で行われています。

〈印内八坂神社の祭礼〉

所 船橋市印内2-7-8 日 7月22日・23日
交 京成電鉄 京成西船駅より徒歩19分

〈八劔神社の本祭・陰祭〉

所 船橋市宮本5-2-1(船橋大神宮)/船橋市湊町ほか
日 ※お問い合わせください
交 京成電鉄 大神宮下駅から徒歩3分

〈山野浅間神社の祭礼〉

所 船橋市西船1-5-7 日 7月1日
交 京成電鉄 海神駅から徒歩15分

祭礼へのお問い合わせは、
☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会 文化課)
【地図はP76～のエリア地図参照】



▲印内八坂神社の荒々しい神輿渡御



▼多くの方が訪れる山野浅間神社祭礼

西船橋駅周辺エリア

P84・B-2 神保町/須賀神社 市指定無形民俗文化財 見学自由

7月
第4土曜日

神保特有の郷土色豊かな祭ばやし

じん ぼ 神保ばやし

北部エリア



神保ばやしは7月の第4土曜日に行われる

八木が谷に伝わる深川ばやしを江戸時代末期から明治時代初めに受け継いだといわれる「神保ばやし」。神保の地に定着してから、旋律の組み合わせやリズム、テンポに独特の工夫が重ねられたようで、リズムは簡潔で力強く、きめ細やかな旋律の響かせ方がたくみに組み合わせられ、現在では他の地域のものとは異なる郷土色をつくり出しています。

構成は、大太鼓1人、小太鼓2人、笛1人、鉦1人の5人。曲は「はやし」「しょうでん」「しちょうめ」「かまくら」「おかざき」の5曲からなり、かまくら・おかざきで「ひよっこ」が登場。続いて「おかめ」が出て踊ります。

地方によってさまざまな祭ばやしが伝えられていますが、神保ばやしは地方的な特色がよくあらわれていて、船橋の民俗芸能として貴重なものです。

所 船橋市神保町102(須賀神社) **時** 18:00~

☎ 047-436-2898(船橋市教育委員会文化課)

交 JR船橋駅、新京成電鉄三咲駅から豊富・小室方面行きバスで「須賀神社」下車

指 昭和54年7月28日

※詳しい日程は船橋市教育委員会文化課までお問い合わせください

➡近隣で見られる文化財

- ① 俳人齋藤その女の墓<西光院>…………… P65
- ② 木造毘沙門天立像<西福寺>…………… P66



P85・右上 小室町 県指定無形民俗文化財

8
月
21
日

9
月
1
日

雄獅子と中獅子が雌獅子を取り合って乱舞する

こむろししまい 小室の獅子舞

市内北部に位置する小室町で行われる「小室の獅子舞」。由来は分かっていませんが、古くから豊作祈願、悪魔払い、疫病退散などに効果があると伝えられています。

雄獅子と中獅子が雌獅子を取りあって乱舞する一人立ちの三匹獅子舞で、舞い手は獅子頭を頭にのせ、杵なしの締太鼓を腰に付けて踊ります。

舞い手3人、笛3人、歌い手2人、花持ち2人、幕持ち2人で構成され、使われる楽器は笛と舞い手の打つ太鼓だけです。

小室の獅子舞は8月21日の本覚寺の施餓鬼会と八朔の日（現在は9月1日）に演じられていましたが、平成20年（2008）より中止となっており、舞に使用される獅子頭は、ご供養されています。

所 船橋市小室町

☎ 047-436-2898（船橋市教育委員会文化課）

交 北総鉄道 小室駅から徒歩5分

指 昭和39年4月28日

※都合により平成20年から行事を中止している

→近隣で見られる文化財

① 俳人齋藤その女の墓<西光院>……………P65

② 木造毘沙門天立像<西福寺>……………P66

▼舞で使用される獅子頭。
左から、雌獅子、雄獅子、中獅子

